

4 農業の価値

農業は、安全・安心な食料の供給はもちろん、その持続的な生産活動を通じて洪水の防止や水源のかん養など、人々の生活に欠かせない多面的な機能を発揮する重要な役割を果たしています。

また、収益性の向上により地域の基幹産業の一つとなっており、雇用創出や関連産業への波及効果をもたらしています。

◆命を支える

～安全・安心な食料を供給する～

世界規模で人口増加や地球温暖化等による気候変動等が生じている中、命の源である「食料」を安定的に供給する必要があり、本県では消費者に多彩で安全・安心な農産物を供給しています。

- 本県の食料自給率:カロリーベース73%(全国37%)、生産額ベース111%(全国66%)
※平成30(2018)年度データ

◆農村を守り未来につないでいく

～多面的機能の発揮～

本県の「農業振興地域」は約28.6万haで、県土面積約64.1万haの約45%を占めています。また、耕地面積は約12.2万haで県土面積の約2割(全国第5位)を占めており、農業生産活動が行われることにより、洪水の防止や水源のかん養、自然環境の保全など農産物の供給のほか様々な機能を発揮し、県民の暮らしを支えています。

- 多面的機能の貨幣価値評価の試算:耕地面積シェア換算2,285億円
(国全体で8兆2,226億円)
- 水田のダム調整機能(20cm貯水):10万haで2億 m^3 (大規模ダム3基分に相当)



機能の種類	評価額(1年)
洪水防止	3兆4,988億円
河川流況安定	1兆4,633億円
地下水かん養	537億円
土壌侵食防止	3,318億円
土砂崩壊防止	4,782億円
有機性廃棄物分解	123億円
気候緩和	87億円
保健レクリエーション	2兆3,758億円
全国合計	8兆2,226億円
栃木県内の評価試算	2,285億円

※日本学術会議からの答申を元に栃木県で試算

◆価値を生み出す

～地域の基幹産業として～

本県農業の就業者数は全就業者数の6.4%の約6.2万人(うち基幹的農業従事者数は約5.3万人)となっており、産出額ベースで2,800億円超を生み出しています。また、農業は、農産物の生産・供給にとどまらず、生産活動に必要な資材や機械等の農業資材関連産業及び生産された農産物を活用する食品製造業や飲食店など農産物需要関連産業に対し、波及効果をもたらしています。

- 経済的な効果:農業及び関連産業合わせて約2兆7,000億円(農業産出額の約10倍)
- 就業効果:農業者及び関連産業の従業者合わせて約23.7万人(県内従業者総数100万人の2割超)

※産業連関表等を用いて試算

※平成27(2015)年データを用いて試算

～ブランド価値の向上～

本県農業は、半世紀以上にわたり生産量日本一のいちごをはじめとする新鮮で安全な農産物により栃木県の地域振興に大きく貢献しています。

- 栃木県産いちごブランドの発信:「いちご王国・栃木」

◆健康的に暮らす

～長寿で元気な農業者～

多くの農業者は非農業者に比べて高齢まで農作業に従事し引退年齢が高く、その結果、医療費の支出も少ないなど、自ら健康を維持することで国や地方の財政負担の軽減にも貢献しています。

- 引退年齢と平均寿命の差が短い
- 農業者の後期高齢者1人当たり年間医療費は農業者以外の7割(農業者以外約91万円、農業者約64万円)

農業者と非農業者の平均寿命及び引退年齢の比較

	性別	自営農業者	自営農業者以外
平均寿命	男性	81.5歳	73.3歳
	女性	84.1歳	82.5歳
引退年齢	男性	74.2歳	64.3歳
	女性	72.8歳	60.8歳
引退後の余命	男性	7.4年	9.6年
	女性	11.0年	19.3年

農業者と非農業者の後期高齢者医療費比較

年	農業者の医療費			農業者以外の医療費		
	被保険者数	総額(百万円)	1人当たり(万円)	被保険者数	総額(百万円)	1人当たり(万円)
2010	625	380	60.7	7,872	6,815	86.6
2011	695	421	60.6	7,996	7,197	90.0
2012	774	493	63.6	8,072	7,379	91.4
2013	852	518	60.8	8,171	7,691	94.1
2014	897	655	73.1	8,258	7,515	91.0
平均			63.8			90.6

資料:㈱農林中金総合研究所「農林金融」2017年9月号

「自営農業者の長寿傾向と後期高齢者医療費への反映—埼玉県本庄市における調査を踏まえて—」

著者 堀口健治(早稲田大学政治経済学術院 名誉教授・㈱農林中金総合研究所客員研究員)

弦間正彦(早稲田大学社会科学総合学術院 教授)